

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 123人

② 算数 123人

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

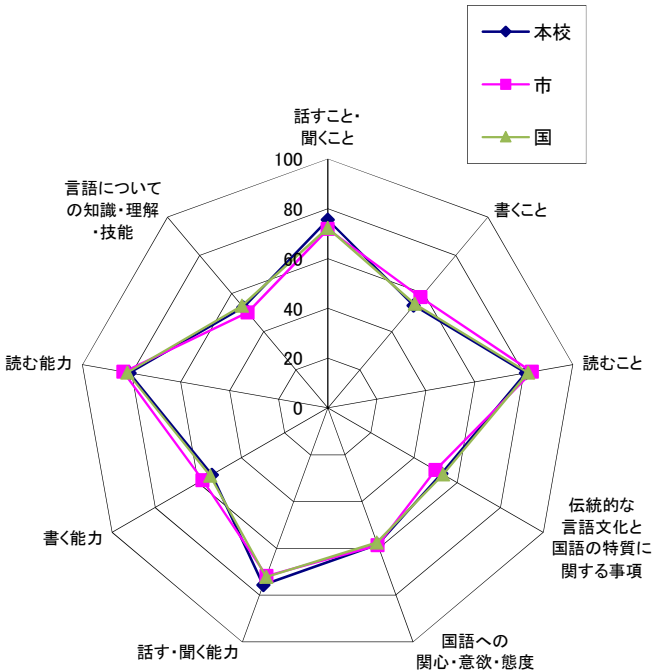
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 75.6 | 71.8 | 72.3 |
|     | 書くこと                 | 53.7 | 58.0 | 54.5 |
|     | 読むこと                 | 80.8 | 83.3 | 81.7 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 52.7 | 50.0 | 53.5 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 58.3 | 58.7 | 57.6 |
|     | 話す・聞く能力              | 75.6 | 71.8 | 72.3 |
|     | 書く能力                 | 53.7 | 58.0 | 54.5 |
|     | 読む能力                 | 80.8 | 83.3 | 81.7 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 52.7 | 50.0 | 53.5 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

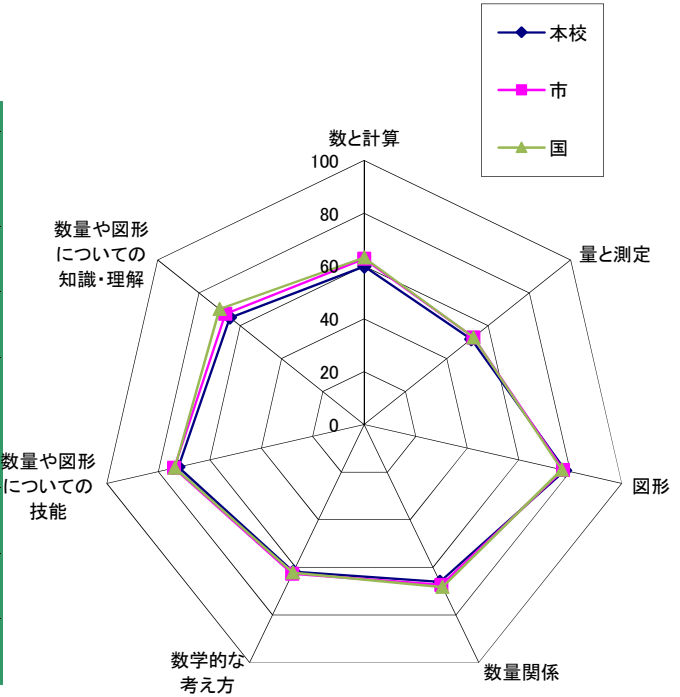
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                              |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | 平均正答率は、市を3.8%、全国を3.3%上回っている。<br><br>○話すこと・聞くことの領域において市の平均正答率を3.8%上回っており、概ね良好な状況といえる。特に、目的に応じて、質問を工夫する設問に関しては、市の平均正答率を9.0%と、大きく上回っている。<br>●話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をする設問では、市の平均正答率を上回っているが0.1%とわずかである。 | ・聞くことに関しては内容を捉えることは概ね定着しているが、話すことに関してはやや課題が見られる。説明をするときに便利な言葉を提示したり、学び合いの場面で、つなぎ言葉を使って友達の意見につなぐ話し方のモデルを示すなど、日常的に自信を持って話ができる場の工夫をしていく。 |
| 書くこと                 | 平均正答率は、市を4.3%、全国を0.8%下回っている。<br><br>○図表やグラフなどの資料を基に、目的を捉える設問では、市の平均正答率を6.0%上回っている。<br>●情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える設問や目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く設問において課題が見られる。                                                | ・書くことに関して抵抗を感じる児童が多いことを考慮し、文章の例や書き方の決まりを示し、短い文章を書く経験を積ませ、徐々に書くことへの抵抗をやわらげていく。<br>・国語科に限らず、他教科の学習でも、自分の考えを書く場面を増やすなど、文章を書く力をさらに鍛えていく。  |
| 読むこと                 | 平均正答率は、市を2.5%、全国を0.9%下回っている。<br><br>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む設問では、市の平均正答率を1.2%上回っている。<br>●目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む設問で、市の平均正答率を4.3%下回っている。                                                               | ・読書の習慣化を図り、様々な分類の本を読むよう指導していく。また、単元を見通し、目的を持って読み進められるような活動や展開を設定する。                                                                   |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は、市を2.7%上回り、全国を0.8%下回っている。<br><br>○5. 6年生の漢字の読み書きについては、国の平均正答率を上回っているものが多く、概ね定着している。<br>●漢字の書きについては、同音異義語での正答率がやや下がる傾向にある。                                                                                     | ・既習漢字の定着を図るために、練習問題などを活用して繰り返し取り組むとともに、日常の会話や作文で積極的に活用するよう促していく。<br>・国語辞書を学習の中で積極的に活用していく。その中で語彙力を高めていく。                              |

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 59.9 | 62.7 | 63.2 |
|    | 量と測定            | 51.8 | 52.9 | 52.9 |
|    | 図形              | 78.0 | 77.3 | 76.7 |
|    | 数量関係            | 66.1 | 67.4 | 68.3 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         | 61.8 | 62.7 | 62.2 |
|    | 数量や図形についての技能    | 72.2 | 73.8 | 73.6 |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 65.0 | 67.2 | 70.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                    |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | 平均正答率は、市を2.8%、全国を3.3%下回っている。<br>○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述する設問では、県の平均正答率を2.9%上回っている。<br>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする設問では、県の平均正答率を5.0%下回っている。                                            | ・4年の学習内容である計算のきまりなど、加法や除法の混じった計算の順序をよく復習する。<br>・計算の仕方について、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えられるような指導を行う。                  |
| 量と測定  | 平均正答率は、市、全国共に1.1%下回っている。<br>○資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する設問では、県の平均平均正答率を4.0%上回っている。<br>●示された形の面積について、示された減法の式によってどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く設問では、県の平均正答率を2.2%下回り、無回答も多く見られる。 | ・量と測定に限らず全体的に傾向を見ると、記述式の問題で無回答の児童が多い。資料や問題文を読み取る力に課題が見られる。資料から数量の関係を読み取ったり、自分の考えを友達と説明し合ったりする場面を意図的に設定していく。 |
| 図形    | 平均正答率は、市を0.7%、全国を1.3%上回っている。<br>○図形の構成要素に着目し、他の図形を構成する設問では、県の平均正答率を5.1%上回っている。<br>●図形の中から台形を選ぶ設問では、県の平均正答率を0.8%下回っている。                                                                        | ・それぞれの図形の構成要素をよく確認し、繰り返し復習することにより知識の定着を図る。また、作図に用いられている図形の約束や性質を理解させた上で、作図の機会も増やしていく。                       |
| 数量関係  | 平均正答率は、市を1.3%、全国を2.2%下回っている。<br>○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす設問では、県の平均正答率を3.2%上回っている。<br>●示された除法の式の意味を理解する設問では、県の平均正答率を2.0%下回っている。                                                                  | ・数量の関係を図や式で表したり、式を読み取ったりして、式のよさが分かるようにするとともに、式を適切に用いることができるようにする。                                           |

## 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○生活習慣については、「毎日朝食を食べている」と回答した児童の割合が96.8%、「毎日決まった時刻に寝たり起きたりしている」と回答した児童の割合も80%を超え、家庭での指導のもと、規則正しい生活をしていることがわかる。ただ、就寝時刻については肯定的回答が県の平均を下回っている。今後も家庭と情報を共有し、改善していく必要がある。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に対して、91.1%の児童が肯定的回答をしており、学校で褒められたり、先生に認められたりすることで、安心感や自信をもって学習に取り組んでいることがわかる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだとおもいますか。」という質問に対して、肯定的回答が98.4%で県の平均を上回っている。今後も道徳や特別活動でいじめに関する教材を取り上げいじめは絶対にしてはいけないことを指導していきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対して、93.5%の児童が肯定的回答をしており、人のために働き、役に立つことの大切さを自覚している児童が多いことがわかる。偉業を成した人の紹介をすることでさらに自分の将来の夢に向かわせたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。」という質問に対して、82.1%の児童が肯定的回答をしており、県の平均を2.5%上回っていることから、主体的に話し合い活動に取り組んでいることがわかる。今後も対話を取り入れた話し合い活動を展開し、自分の考えを深められるようにしていきたい。

●「国語の勉強は好きですか。」という質問に対しては肯定的回答が69.9%で低めである。しかし、「国語の勉強は大切だと思いますか。」や「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問に対しては、93%以上の児童が肯定的回答をしており、国語の大切さを感じていることが伺える。学習の中で新聞を活用したNIE活動を展開したが、国語が社会生活に必要であると感じる結果につながったと考えられる。今後も生活の中にある教材を活用した教育活動に取り組んでいきたい。

●「算数の勉強は好きですか。」という質問に対して、肯定的回答が70.7%である。また、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」という質問に対して77.2%、そして「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対しても、肯定的回答が78.9%とやや低い。一方、「算数の勉強は大切だと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」といういずれの質問に対しても、95%以上の児童が肯定的回答をしている。このことから、算数を学ぶ必要性は実感しているものの、苦手意識があることがわかる。「できる」「わかる」授業を展開することで、児童が達成感を感じ、意欲を高められるように指導を継続していく必要がある。

●学習習慣については、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対しては、70%の児童が肯定的回答で低く、県の平均を下回っている。与えられた課題に対しては一生懸命取り組んでいるが、進んで計画的に取り組んでいないことがわかる。今後は、自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、参考になる例を紹介したりして、家庭での学習を自主的に進めることができるようにしていきたい。

## 宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                     | 取組の具体的な内容                                                                                                                           | 取組に関わる調査結果                                                                               |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成 | ・児童が自分の考えを臆せず表現し、話し合うことができるように、月に2、3回、朝の活動の時間に学級の実態に合わせた形態で話し合い活動を行うことで、話し合うスキルの向上を図る。<br>・発達段階に合わせて話し合いの型を作成し、それを活用した話し合いの指導をしている。 | ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という質問に対して、78.9%の児童が肯定的回答をしており、市の平均を上回っている。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                              | 重点的な取組              | 取組の具体的な内容                                                                                                                  |
|-------------------------------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・自分の考えを文章にして表現すること<br>・根拠をもとに考え、文章にまとめること | 各教科における、まとめ・振り返りの充実 | 授業のまとめ・振り返りを、各学年の実態に応じた手立てを与えたり考えさせたりして、自分の言葉で文章を組み立て表現させる。これによって、まとめでは授業内容が根拠となったり、振り返りでは自分の考えを表現する場となり、文章で表現する力の向上を図りたい。 |